

## 自然に恵まれた登別市で観光行政を学んで

受入自治体：北海道登別市

氏名：林 善花

出身国：中華人民共和国

研修先：登別市役所



### 1 本事業に応募した動機

私は、広州市南沙区投資サービスセンターに勤め、外資企業の誘致など、国際交流関連の仕事を担当している。日本と関わりの深い仕事が増え、日本に対しての理解が不十分であると感じていた私にとって、今回の研修は、日本文化そのものを自ら体験し、実感できる絶好の機会であると考えた。

登別市と広州市は2002年に友好交流促進都市の盟約を結び、双方は観光産業を通じて積極的に交流してきた。更に両市は今後さまざまな分野でより深く交流を行うため、本年11月に友好都市として正式に協定を締結することとなっている。帰国後も、両市間の架け橋として、友好交流のために努力したいと考える。

### 2 研修の概要

#### (1) 全体研修 (5月20日～6月20日)

各国からの協力交流研修員が日本に到着し、本格的に研修が始まった。初めの2日間の研修は総務省において開会式、オリエンテーション、日本語レベルチェックなどを行った。そのほか、地方公共団体の機関、国家と地方政府の事務分担及び地方自治の課題等の説明を受け、日本の自治体の状況を理解することができた。また、都内視察では都庁、国会議事堂など日本の代表的な施設を見学した。

5月23日、滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所に到着。約1ヶ月の日本語研修が始まった。研修員は日本語のレベルで6つのクラスに分けられた。学校を卒業してから久しぶりの学生生活である。講師の方々には責任感が強く、真面目で素晴らしい。授業日程は詰まっており、毎日の宿題、テストもあった。私はその環境に徐々に慣れ、積極的にそして真面目に勉強した。我々にとってこれ以上優れた専門知識を勉強するチャンスはないだろう。研修所での生活は多種多様で勉強以外にも所外研修があった。京都の観光名所、防災センター、彦根城、日野商会などを訪問して、日本の防災、環境などに関する施設見学や先進技術を学ぶとともに、さまざまな日本伝統文化を体験した。最後の研修成果発表会では司会者の担当ができ、光栄に感じた。

#### (2) 専門研修 (6月21日～11月13日)

##### ア) 一般行政研修

登別市での専門研修は一般行政研修と観光行政研修である。6月25日から7月25日までの約1ヶ月間、市役所で一般行政研修を受けた。毎日、市役所の各

部署の担当者からそれぞれの行政課題とその取組について詳しく紹介してもらい、お互いに交流した。また、市民活動センター、市民会館、老人福祉施設、クリンクルセンター（ごみ処理施設）、学校、保育所、葬斎場、浄水場、下水処理場などの関係施設も見学し、登別行政について全般的な情報を把握することができた。登別の環境に対しての施設と取組は特に印象深い。市の各地域ではそれぞれごみ収集日が設定されており、午前 8 時までに指定のゴミステーションまでゴミを出すことになっている。朝早くゴミを回収するのはゴミステーションに集まるカラスによる被害を防ぐためである。市民の協力もあり登別市は周辺地域に比べカラスが少ない。登別市では、ゴミの減量化やリサイクルを推進し、「資源循環型社会」の実現を目指している。それだけではない。ごみ焼却によって発生する余熱は、施設内の暖房、給湯や市民の憩いの場となる市民温水プール、市民ギャラリーなどの熱源として有効に利用されるシステムになっている。

#### イ) 観光行政研修

7 月 26 日から、日本全国で有名な登別温泉街に位置する観光振興グループにおいて観光行政研修が始まった。「湯の国」登別市は、登別温泉とカルルス温泉を抱える日本有数の温泉観光都市である。9 種類の泉質を有する温泉のデパートとも呼ばれている。温泉だけではなく地獄谷や大正地獄、奥の湯、天然足湯など、さまざまな観光名所を有し、世界中の観光客が年間 300 万人以上訪れる。登別温泉町の夏は涼しく、最高気温が 25 度程度で避暑地でもある。

国内外の観光客の更なる増長を目指して、登別市の観光振興グループの職員は絶えずに努力を重ねていた。定期的に周辺地域で当地域を P R し、さまざまなイベントを開催して観光客を集めている。更に登別観光協会の事務所にはインフォメーションセンターが設置されている。当センターには中国語、韓国語、英語などの外国語に対応できるスタッフがおり、外国人向けのパンフレットも完備されている。

8 月 25 日、26 日の 2 日間で行われた「第 49 回登別地獄まつり」は最も盛大だった。国内外から大勢の観光客が集まってこの祭りを楽しみ、最高に盛り上がった。私は、祭りの主役の 1 つである女官に扮した。

また、6 月～8 月までの毎週 2 回「地獄の谷の鬼花火」を開催していた。その参加者の規模は 3,500 人までに昇る。

そのほかにも、登別漁港まつり、カニまつりなど、地元のまつりに参加し、日本の伝統文化を体験した。

また、テーマパーク、ホテルなどでの実務研修では、さまざまな体験をすることができ、各職場における担当者の真面目さ、勤勉さ、そして地元に対しての愛情と情熱を実感した。



登別伊達時代村にて

#### ウ) 市民との国際交流

##### a) 中国語講座

中国語講座の開催時期は、登別に来て数ヶ月経った 10 月中旬に実施した。講座は 50 分間の講座を 9 回に分けて行った。参加者に少しでも多く中国語を覚え

てもらいたかったので私も情熱を持って教えたつもりだ。短い時間だったが、お互いに心を合わせて交流できたと思う。

#### b) 中華料理教室

中華料理教室では私の得意料理「本場の水餃子」を作り、約30名の参加者と一緒にその場を盛り上げた。男性の参加者が7名もいたが、男子主義社会で知られている日本で料理作りに積極性を見せている男性を見て、少し驚いた。

#### c) その他の交流

週末などの時間を利用してたくさんの市民と交流を行った。



中華料理教室にて

9月8日から登別市で知り合ったご夫婦と毎日ジョギングを続け、10月8日の「白鳥大橋マラソン」に参加して完走証が取れた。ジョギングは今でも続けており、帰国してからもずっと続けていきたいと思う。

また、市民の方に津軽三味線を教えていただき、深く日本文化に触れることができた。その他にも餃子作り、バドミントンなどさまざまな活動を通じて、市民と直接交流し、お互いに意見・情報交換をすることができた。

#### d) 道内研修

専門研修中、2回に分けて札幌、小樽、旭川、富良野、函館を含む道内研修を受けた。優れた自然に恵まれた北海道はどこへ行っても、そのものが観光名所だった。小樽の美しい運河、富良野のラベンダー、道内最大の旭山動物園、函館の五稜郭、函館山の紅葉、神秘的な教会群などを見物し、ご当地の美食もたくさんいただいた。

### 3 帰国後の展望

帰国後、広州市と登別市の架け橋として、更に日中両国の友好のために努力したいと考える。

#### (1) 観光の研修を活かして

ア) 私の勤務している広州市南沙区は多くの観光資源を有しており、今後に向け、優れた観光地を建設するための検討を行っている。優れた観光地とするためには、その地域の環境が非常に重要だと思う。研修中で体験し学んだ登別市の環境への取組を地元で宣伝し、実現できることを目指して努力したい。

イ) 登別と広州は気候に大きな違いがある。暑い時期が長く続く広州ではその季節に応じた特別な祭りがあまりない。登別では「地獄まつり」や「地獄の谷の鬼花火」など、夏に合わせた祭りがたくさんあり、登別はそれらを通じて、当地方を宣伝し、観光客の心を掴むよう最善を尽くしている。

また、世界中でもよく知られている日本の優良なサービスだが、現地に住んでからその素晴らしさを実感することができた。笑顔での細心なサービスを広州でも活用できるようにしたいと思う。

#### (2) 日本語能力を活かして

私は、広州市南沙区で日系企業誘致など経済交流関係の仕事をしている。自分の日本語能力を活かして日本との経済交流をはじめ、さまざまな分野で

交流を活発にしていきたいと思う。

(3) 登別市での生活経験を活かして

自然に恵まれた登別は人々に愛されていた。登別市民の皆さんは情熱を持って地元を愛していた。そして、心を1つにして地元のためにさまざまな貢献をしていた。外国からの研修員の私を皆さんは温かく受け入れてくれ、登別のこともたくさん教えてくれた。帰国してから広州の人に登別を宣伝し、より多くの人々に登別温泉をはじめとした登別の観光自然を知ってもらいたい。

4 終わりに

今回の研修において日本の皆様から多大なるご協力を頂きました。総務省、CLAIR、JIAM、登別市長をはじめとする市役所の皆様、そして、市民の皆様にご心より感謝申し上げます。